

施策マネジメントシート1(平成31年度目標達成度評価)

更新日 令和2年6月25日

事業番号 003000029

総合計画体系	政策No.	03	政策名	産業の発展と交流でにぎわいまちづくり	施策主管課	観光交流課
	施策No.	05	施策名	観光交流の推進		
関係課		商工課,文化・交流課,スポーツ課,ふるさと納税課,政策企画課,シティーセールス課,漁港振興課,観光交流課				

1 基本計画期間(平成30年度～令和3年度)における「施策の方針」  重点施策

- ・交流人口を拡大させるため、旅行形態や観光動態調査を実施し、ターゲットを絞った的確な誘客活動に取り組みます。
- ・SNSやメディアなどを通して効果的な情報発信に取り組みます。
- ・文化財、芸術、スポーツイベントなど新たな観光資源を掘り起こすとともに、必要に応じた観光施設の整備・誘致を図ります。
- ・魚食を中心とした「食」を活かした観光振興を図ります。・水産業を中心とした市内産業の産業観光化を推進します。
- ・焼津市ならではの歴史や文化などにストーリー性を持たせた新たな観光ルートを構築し、観光客の回遊を図ります。
- ・近隣市町と連携してMICE※の招致に取り組みとともに、焼津市への参加者の回遊を図ります。
- ・既存イベントを見直すとともに、観光客の滞在時間を増やすような新たなイベントを企画し、実施します。
- ・外国人への体験型観光やわかりやすい観光情報の積極的な提供などにより、インバウンドの拡大を図ります。

2 施策の目的(①対象③意図)と指標(②対象指標④成果指標)等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市民・観光客							
②対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	数値区分	30年度 (実績)	31年度 (実績)	2年度 (計画)	3年度 (計画)	4年度 (計画)	5年度 (計画)
A	関東、中部圏の住民	千人	見込み値	66,404.0	66,436.0	66,461.0	66,461.0	0.0	0.0
			実績値	66,436.0	66,461.0	0.0			
B	静岡空港利用者数	千人	見込み値	700.0	700.0	700.0	700.0	700.0	0.0
			実績値	714.2	737.9	0.0			
③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		観光で交流し、にぎわいを創出する							
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	30年度 (実績)	31年度 (実績)	2年度 (計画)	3年度 (計画)	4年度 (計画)	5年度 (計画)
A	観光交流客数	千人	目標値	4,630.0	4,920.0	5,210.0	5,500.0	0.0	0.0
			実績値	3,918.0	3,719.0	0.0			
			達成率	84.6%	75.6%	0.0%			
B	宿泊者数	千人	目標値	451.0	458.0	465.0	472.0	0.0	0.0
			実績値	440.0	418.0	0.0			
			達成率	97.6%	91.3%	0.0%			
C			目標値						
			実績値						
			達成率						
D			目標値						
			実績値						
			達成率						
E			目標値						
			実績値						
			達成率						
F			目標値						
			実績値						
			達成率						

⑤成果指標の測定方法 (実際に成果指標の実績値をどのように把握するのか)

A, B:「静岡県観光交流の動向」より把握  
 A:観光交流客数  
 交流人口を2028年度に1000万人にすることを目標としているため、2023年度の交流人口の目標数値を750万人とする。このことから観光交流客数は2021年度は550万人とし、平成28年度(2016)が405万人であるため、増加分(145万人)を各5年間で単純に振り分け、各年度の目標値は平成28年度から29万人ずつ加算していく。  
 B:宿泊者数  
 同様に、2021年度の宿泊者数の目標数値を47.2万人とし、平成28年度(2016)が43.7万人であるため、増加分(3.5万人)を各5年間で単純に振り分け、各年度の目標値は平成28年度から7千人ずつ加算していく。

⑥基本計画期間における施策の目標設定とその根拠

⑦施策コスト (トータルコスト=事業費+人件費)		単位	30年度 (実績)	31年度 (実績)	2年度 (計画)	3年度 (計画)	4年度 (計画)	5年度 (計画)	
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	1,902	5,500	28,575	16,250	6,250	6,250
		都道府県支出金	千円	0	166	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	34,490	39,860	34,995	25,923	25,923	25,923
		一般財源	千円	150,850	175,768	356,012	256,005	246,005	115,237
事業費計(A)		千円	187,242	221,294	419,582	298,178	278,178	147,410	
人件費	正規	職員従事人数	人区	4.5	6.1	5.2	4.9	4.8	2.4
		職員延業務時間数	時間	8,693.0	11,706.0	9,909.0	9,469.0	9,168.0	4,608.0
		職員人件費	千円	26,635	52,958	31,164	29,780	26,761	6,152
		人件費計(B)	千円	26,635	52,958	31,164	29,780	26,761	6,152
経費		その他	千円	0	0	0	0	0	0
		経費計(C)	千円	0	0	0	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)+(C)	千円	213,877	274,252	450,746	327,958	304,939	153,562
この施策の事務事業数		本数	23	23	23	23	23	23	

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

ア) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)

- 【市民】
- ・おもてなしの心をもって来訪者を迎える。
- 【観光協会や観光関連事業者】
- ・個々の営業努力に加え、来訪者を迎え入れるよう主体的に観光事業に取り組む。

イ) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・市民や観光関連事業者と協働し、おもてなしの心をもって観光行政を推進します。
- ・新たな観光資源となり得る地域資源を掘り起こし、観光資源として磨きあげます。
- ・観光施設を整備し、維持・管理します。
- ・観光情報を効果的に発信します。
- ・イベント開催の支援を行います。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化したが、令和2年度を見越して、今後どのように変化するか?

- ・新型コロナウイルスの感染収束後、全国で誘客キャンペーンが実施され、自治体間競争が激しくなると思われる。
- ・新しい生活様式への意識から、マイカーによる国内個人旅行から回復すると思われる。
- ・新型コロナウイルスの影響で大きな打撃を受けた地域産業の活性化が急務である。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・地域資源(特にやいづ黒潮温泉)の活用を積極的に進めるべきである。(住民・議会)
- ・市内の歴史文化資源を活かし、観光スポットを結ぶストーリー性を持たせた観光ルートを開発する。(住民・議会)
- ・関東、中部圏域を中心にした観光キャンペーンを実施した方が効果がある。スポーツ合宿等の誘致に向けた大学等へのキャラバンを実施してほしい。(観光事業者)
- ・観光バスの待機場所や駐車場の確保を進めてほしい。(観光事業者)

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(平成31年度の目標と実績との比較)

成果指標名	単位	平成31年度成果指標の達成度			結果
		目標値	実績値	達成率	
A 観光交流客数	千人	4,920.0	3,719.0	75.6%	×
B 宿泊者数	千人	458.0	418.0	91.3%	×
C					
D					
E					
F					

\* 平成31年度施策の成果指標の達成状況及び要因

A: 未達成(対前年度比約20万人減)。第1四半期は温泉供給の復活とデスティネーションキャンペーン効果により、対前年比17万人以上増加する好調な滑り出しであったが、第2四半期は台風や天候不良により海上花火大会の延期、海水浴客が半減するなど伸び悩み、第3四半期についても台風19号による被害発生などにより観光交流客数が減少傾向になり、第4四半期については新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛要請等により、対前年度比約25万人減少した。

B: 未達成(対前年度比約2.2万人減)。上半期は温泉の復活とDC効果から、温泉を提供する観光宿泊施設が好調で、対前年を上回っていたが、第3四半期から台風の影響もあって減少したところに、第4四半期は新型コロナウイルスの影響により1万5,900人のキャンセルが発生するなど、対前年比約2万4,000人下回り、大きな影響が出た。

※○: 目標達成 △目標をほぼ達成(達成率95%以上) ×: 目標を未達成 指標名に(ー)があるものは、目標値より実績値が低いものを達成とする

② 施策の振り返り(住民と行政の役割分担を踏まえて、施策の目標達成に向けて、基本計画で掲げた「施策の方針」及び「基本事業の取り組み方針」にどのように取り組んだか。)

- ・(旅行形態、観光客ニーズの把握と的確な誘客活動)新幹線とタクシーによる移動、さかなセンターでの昼食、日帰り温泉の利用をパッケージしたモニターツアーを実施し、新たな顧客の掘り起こしを図った。
- ・(情報発信の強化)雑誌タイアップ広告及び発行、WEB雑誌掲載、TVタイアップ広告、ラジオ、リスティング広告、インフルエンサーによる情報発信など多様な媒体で情報発信を行った。
- ・(観光資源の確保と有効活用)『港で「朝メシ」! 見学と焼津ミナミマグロ丼を食す』に加え「-60°Cのマグロ冷蔵車体験」などの産業観光商品の開発を行った。また、焼津の食による誘客を推進する「焼津ぐるめぐり」の開催や、地域おこし協力隊が企画運営する釣り体験の推進を行った。
- ・(観光資源の確保と有効活用)工場併設の直売所パンフレットを作成し、焼津市ならではの「できたて」を伝えるとともに、静岡福祉大学との包括協定により、直売所を巡る回遊ルートの研究を行った。
- ・(おもてなし体制の整備と外国人旅行者の誘致)三市一町広域観光連携協議会で台北国際旅行博覧会に出展するとともに、現地エージェンツセールスやニーズ調査を実施した。

③ 施策の課題(基本計画で掲げた施策の「現状と課題」、「②施策の振り返り」を踏まえて、令和2年度、3年度に向けた施策の課題はなにか)

- ・(情報発信の強化)新型コロナウイルスの感染収束後に行う誘客キャンペーンにおいては、本市の地域資源を活かした話題性を打ち出し、県民やリピーターをメインターゲットに情報発信を行い、宿泊客数の回復に取り組む必要がある。
- ・(観光資源の利活用の推進)海や港などを活用した体験型旅行商品を増やし、宿泊客に提供できる体制を整備していく必要がある。また、貴重な観光資源であるやいづ黒潮温泉を安定供給できる施設整備と運営体制の検討が必要である。
- ・(水産物等を活用した焼津市の観光ブランド化)鮎、鱈、鯖、桜えび等の水産物を中心とした食の情報発信を強化し、水産都市としての認知度をさらに高めていく必要がある。
- ・(産業観光の推進、市内回遊ルートの構築)取りまとめた工場併設直売所リストを基に、焼津市ならではの産業観光を推進する必要がある。また、市内の回遊性を高めるため、各観光スポットに立ち寄りの動機づけとなる工夫を施す必要がある。
- ・(インバウンドへの対応)デジタルマーケティングによるデータ分析をもとに、ターゲットの絞り込みを行い、国内外の情勢を見極めながらインバウンドへの対応を進めていく必要がある。